同窓会および校友会等の友愛組織の学生募集への関与に関する調査研究

—私立大学・短期大学における状況—

鈴木敏明，石井光夫（東北大学高等教育開発推進センター入試開発室）

我が国の私立大学および短期大学（以下，短大と標記）の同窓会および学友会等（友愛組織と総称）の学生募集活動および入試関連プロセスへの関与状況について，全数調査を実施した。その結果，学生募集活動については約 25%の私立大学・短大において，また，入試関連プロセスについては私立大学の 8.6%，私立短大の 10.4%において友愛組織の関与があることが明らかとなった。さらに，友愛組織が学生募集活動および入試関連プロセスに関与することに対する記述回答の分析から，1）適合的学生を確保する可能性を高める期待と，2）外形的公正性，公平性，正確性等の確保の難しさ，という双極的要因間の均衡形成の重要性が示唆された。

1 問題と目的

大学や短大の学生募集・入試において進行しつつある近年の変化をひとことで表現するならば，「LARGE Admission から，SMALL Admission への移行圧力の増大」ということである。

LARGE Admission とは，主にペーパー学力試験に依拠した一括型の選抜方法（多くの一般選抜）のことである。この方法は，能力主義と公平性確保の観点から多用されてきたが，昨今の進学構造の変化にともなって，その効用は明らかに減衰してきている。

近年その改善方策として，一括型の一般選抜の定員枠を縮減・転換する形で，アドミッションポリシーに準拠した多元的な指標を組み合わせ，積極的な適合性評価を行うことを謳った推薦入学やＡＯ入試の導入が進められてきた（小区分入試：SMALL Admission への移行）。これは，大きくは入試分野における行政の規制緩和の流れに位置づけられるものであり，今後しばらく継続すると思われる。

本研究は，そうした学生募集・入学者選抜の多様化スペクトラムの構成要素として，大学・短大における同窓会および校友会等の友愛組織（以下，この用語で統一）が，志願者募集および入学者選抜プロセスに組み込まれる可能性について検討するものである。既に一部の私学では友愛組織が関与する募集・選抜を推薦入学等の特別選抜枠に導入しており，今後，主にＡＯ入試において，友愛組織が関与するタイプの学生募集・入学者選抜が一定程度普及する可能性は高いと思われる。

しかし，そうした新しいタイプの募集・選抜方法を導入する場合には，公平性，公正性，厳密性の確保といった入試に対する社会的期待との間でコンフリクトを生ずることが十分に予想される。本調査研究では，そうした問題点を検討するため，関連するデータを収集し分析を加えた。

2 方法

郵送により調査票を配布・回収する質問紙調査法を用いた。

2.1 調査票の構成

調査項目の詳細は表１のとおりである。

Ｑ１は学生募集活動への友愛組織の関与に

ついて，Q2は入試関連プロセスへの友愛組織の関与について，それぞれ7つの選択肢から該当するものを重複選択で回答し，選択した項目については簡単な説明を付加することを求めている。

表1 調査項目一覧

質問/回答項目	回答形式	
	選択	記述
フェイスシート		
回答者名	−	○
役職	−	○
連絡先	−	○
Q1．学生募集活動への関与状況		
1．大学・短大説明会	○	○
2．個別高校訪問	○	○
3．オープンキャンパス	○	○
4．大学・短大案内情報誌やホームページ作成	○	○
5．入学志願者の紹介	○	○
6．その他の学生募集活動	○	○
7．学生募集活動への関与はない	○	−
Q2．入試関連プロセスへの友愛組織の関与状況		
1．入学志願者の推薦	○	○
2．入試における面接試験	○	○
3．入試における学力試験	○	○
4．入試における実技試験	○	○
5．合否判定	○	○
6．その他の入試関連プロセス	○	○
7．入試関連プロセスへの関与はない	○	−
Q3．友愛組織が学生募集活動に関与することのメリット	−	○
Q4．友愛組織が学生募集活動に関与することのデメリット	−	○
Q5．友愛組織が入試のプロセスに関与することのメリット	−	○
Q6．友愛組織が入試のプロセスに関与することのデメリット	−	○

Q3～Q6は，学生募集活動および入試関連プロセスに友愛組織が関与することに対する回答者の見解を自由記述により求める項目である。本調査の性格が友愛組織の学生募集活動および入試プロセスへの関与状況の概要把握を目的とした予備調査的なものであることを踏まえ，できるだけ多くの反応を収集するために，回答にあたってのスタンスは敢えて指定していない。したがって，得られる回答には，大学・短大としての公式見解，担当レベルでの確認事項，現時点での学内議論，担当者の個人的見解など，数種類の表明が混在している可能性があるが，それらは全体として当該テーマに関する学生募集・入試関係者の意見の集合を反映しているものと見なし，今回の調査においては，そうした反応混在を許容した上で分析を行うこととした。

2.2 調査対象および調査票の回収状況

平成19年度に学部学生募集を実施している私立大学：564，私立短大：366を対象とし，それぞれのアドミッションセンター長および入試委員長等の入試企画・実施責任者宛に，上記調査票を，協力依頼書と調査票返送用封筒を同封の上，2007年12月10日付けで送付した。回答期限は，記入済みの調査票を同封の返信用封筒に封入して，2007年12月25日までに投函するよう要請する形で設定した。また，都合で期限までに回答できない場合でも，回答終了次第返送するよう依頼した。

本稿では，回答のあった私立大学：276（回答率48.9%），私立短大：154（回答率42.1%）を対象に分析を行う。なお2大学からは，それぞれ2件ずつの回答があったので，私立大学の全回答数は278である（2008年3月31日時点）。

3 結果と考察

全ての集計結果において，私立大学と私立短大間に特段の差異は認められなかったので，以下では一括して分析することとする。

3.1 学生募集活動への関与状況(Q1)

学生募集活動への友愛組織の関与状況についての回答の分布を表2に示す。構成比算出のための分母は私立大学：278，私立短大：154である（前項記載のとおり。以下同様）。

「7.友愛組織の関与はない」と「8.無答」を合わせた回答は私立大学：75.1%，私立短大：75.3%であり，大半においては学生募集活動への友愛組織の関与がないということであるが，25%程度においては，何らかの形での関与がある旨の回答が得られた（選択肢1～6，重複回答で1.3%～11.2%）。

「5.入学志願者の紹介」（私立大学：7.9%，

私立短大：7.8%)と「6.その他の学生募集活動」(それぞれ 11.2%と 9.1%)に対しては比較

表２ 学生募集活動への友愛組織の関与(分布)

選択肢	私立大学	私立短大
1．大学・短大説明会	2.9%	1.9%
2．個別高校訪問	2.9%	1.3%
3．オープンキャンパスの実施	2.5%	5.2%
4．大学・短大案内情報誌やHPの作成	3.2%	5.2%
5．入学志願者の紹介	7.9%	7.8%
6．その他の学生募集活動	11.2%	9.1%
7．友愛組織の関与はない	68.3%	74.0%
8．無答	6.8%	1.3%

表３ 学生募集活動への友愛組織の関与(記述)

1．大学・短大説明会
・志願者からの相談対応
2．個別高校訪問
・卒業生による出身高校訪問
3．オープンキャンパスの実施
・同窓会組織が運営する学生食堂の供用
・当日の会場スタッフ
・体験学習の指導，施設見学の案内，学生生活相談への対応
・就職先の具体的な仕事内容に関する情報を提供
・在学時の体験談を紹介する企画を担当
・同窓生の著作物展示コーナーへの出展協力
4．大学・短大案内情報誌やHPの作成
・大学のHPから同窓会HPへのリンク
・大学のHP作成への協力（コンテンツ作成）
・就職先の仕事の情報を提供
・学校案内に卒業生からのメッセージ掲載
・大学案内冊子に卒後の職場での活躍を紹介する記事を提供
5．入学志願者の紹介
・同窓生，校友およびそれらの知人の子弟情報の提供
・運動部の選手の紹介
・卒業生，在学生，家族推薦入学制度がある
・同窓生推薦という入試制度がある
・同窓会紹介枠（特典有り）を設け，同窓会員に依頼文書郵送
・同窓子女制度での姉妹及び子女の紹介
・各支部総会で進学情報の提供や個別の進学相談に対応
・高校教員をしている同窓生からの推薦制度がある
・系列の宗派関係からの推薦制度がある
6．その他の募集活動
・高校教員をしている同窓生との定期的な交流の場を設定
・同窓生の海外会やコンサートの機会を利用した大学紹介
・同窓会機関誌等への大学・入試情報および大学の広告を掲載
・地方同窓会開催時に大学案内や募集要項を配布
・同窓会開催時に同窓生子弟入試制度を説明

的多くの選択がなされた。それらの項目も含めて，各項目選択時に付加された記述回答を整理したものを表３示す。なお，回答内容については，統計的集約および匿名化処理を施す旨誓約しているので，表３に示された個別の反応は，調査票に記載されたままのものではなく，必要な編集を加えたものである（以下の表 5.7.9.11.13 も同様）。

「5.入学志願者の紹介」への記述回答からは，同窓生の子弟に関する情報提供，有望なスポーツ選手の紹介，高校教員をしている同窓生からの志願見込み者の紹介，系列の宗教関係（寺院・教会）の子弟の紹介といった，かなり踏み込んだ形での友愛組織の関与があることがうかがえる。

「6.その他の募集活動」からは，「5.入学志願者の紹介」よりは一般的なレベルで，友愛組織関連のイベントや広報媒体に大学・入試情報を入れ込ませる形で協力するといった関与の存在がうかがえる。

3.2 入試関連プロセスへの関与状況(Q2)

入試関連プロセスへの関与状況についての回答の分布を表４に示す。

表４ 入試関連プロセスへの友愛組織の関与(分布)

選択肢	私立大学	私立短大
1．入学志願者の推薦	7.2%	7.1%
2．入試における面接試験	0.4%	0.0%
3．入試における学力試験	0.7%	0.0%
4．入試における実技試験	0.0%	0.0%
5．合否判定	0.4%	0.0%
6．その他の入試関連プロセス	0.7%	2.6%
7．友愛組織の関与はない	83.1%	88.3%
8．無答	8.3%	1.3%

「7.友愛組織の関与はない」と「8.無答」を合わせると，私立大学：91.4%，私立短大：89.6%であった。このことは，ほとんどの大学・短大において，合否判定等の入試関連プロセスへの友愛組織の関与は存在しないということを示す結果である。

選択肢 1～6 に対する選択反応は少数であったが，「1.入学志願者の推薦」については，私立大学：7.2%，私立短大：7.1%の選択回答があった。

表5は各項目への記述例である。「1.入学志願者の推薦」への回答からは，友愛組織そのもの，個々の同窓生，系列高校に在籍する同窓生教員，系列の宗教関係（寺院・教会）等，さまざまなチャンネルで志願者を推薦する制度が導入されていることがうかがえる。

表5 入試関連プロセスへの友愛組織の関与（記述）

1．入学志願者の推薦
・同窓会長推薦
・同窓会支部長推薦
・同窓生推薦制度
・同窓生生徒特別選考
・同窓会子女推薦枠
・卒業生子女推薦入試（特別推薦）
・４親等以内の親族に本学卒業生または在学生がいる者に対する特別入試
・同窓会員子女に対する特別減免制度での推薦
・系列高校の同窓生教員からの推薦
・同窓生子弟・子女推薦入学制度への推薦
・出願時に同窓生の推薦書を添付できる制度
・ＡＯ入試の中に同窓生子弟・子女対象の区分を設定
・系列の宗派関係からの推薦制度
・学友会推薦
2．入試における面接試験
・面接試験担当者として参画
3．入試における学力試験
・学力試験会場の受付，案内，試験監督等
・地方試験場/サテライト会場における補助
5．合否判定
・試験得点の集計作業補助
6．その他の入試関連プロセス
・推薦入学合格者に対する入学前学習支援（問題作成や添削で協力）
・受験講習会への参加呼びかけ
・公募推薦の書類審査点加点

3.3 友愛組織が学生募集活動に関与することのメリット(Q3)

この部分は，友愛組織が学生募集活動に関与することで実現できている，あるいは期待できるメリットについての自由記述を求めた質問である。

回答欄への記述回答は私立大学：123，私立短大：73 であった。得られた記述内容を，内容分析の手法を用いて，いくつかのカテゴリーに分類整理した。それらの中から構成比が大学/短大で 10%を越えるものを抽出し，分布を表6に，記述例を表7に示す。

表 6 学生募集活動に友愛組織が関与することのメリット（分布）

主な反応カテゴリー	私立大学	私立短大
1．体験に基づいて伝えられる	39.8%	52.1%
2．特長を的確に伝えられる	35.0%	31.5%
3．熱意と愛着を持って伝えられる	13.0%	17.8%
4．志願者層の開拓につながる	11.4%	15.1%
5．広報効果がある	3.3%	17.8%

表 7 学生募集活動に友愛組織が関与することのメリット（記述）

1．体験に基づいて伝えられる
・出身学校であるため，体験に基づいた詳しい説明をすることができる
・卒業生だからこそ話せる内容を伝えることができる
・体験をとおしての説明なので，わかりやすく伝えることができる
・卒業生の視点から学校の新たな魅力の提示が期待できる
・卒業生の説明は，信頼感をもって受け止められる
・自らの体験を伝えることで訴求力がアップする
・通り一遍ではない，より魅力的な説明ができる
・学生生活と将来の職業について具体的に説明でき，現実感がある
・説明の場に同伴する父母への好影響がある
2．特長を的確に伝えられる
・学生の立場・視点からの情報提供ができる
・学校の良い点・悪い点をはっきりと伝えることができる
・校風・伝統などを伝えることができる
3．熱意と愛着を持って伝えられる
・親身になって相談に対応してもらえる
・募集活動に対する取り組み方が真剣である
・志願者に本学の情報を好意的に伝えてくれる
・母校への「想い」が強く，母校に力がある
4．志願者層の開拓につながる
・学校との信頼関係により，責任のある推薦が得られる
・人脈を利用することで訪問可能な高校数が増加する
・同窓生のネットワークを利用した募集ができる
・紹介等による志願者の増加が見込める
・子弟子女入試を行う場合にメリットがある
・特定の地域および高校との関係深化をある程度促進できる
・学校としては掌握できない地域や，個人ベースでの募集展開が可能となる
・組織のネットワークを活用し，志願者に接触する機会を増やすことができる
5．広報効果がある
・全国各地において学生募集活動が効果的に実施できる
・地方在住者の協力により，ＡＯ入試の拠点ができる可能性がある
・地域の情報に強い
・支部ネットワークにより全国をカバーできる
・地方に友愛組織の支部がある場合，そこでの募集活動に協力してもらえる
・遠隔地の広域募集活動（説明会）ができる

全体的には，自分の母校である故に，学生時代の体験に基づいて，情熱をもってリアルに訴求力のある学校紹介を行えること，卒業生がそれぞれの在住地域において形成・蓄積してきた知見や人的ネットワークを学生募集活動に提供してもらうことで大学・短大とし

ては力が及ばない部分の補完効果が生じ得ることに対する現実の効用および期待感が表明されている。

3.4 友愛組織が学生募集活動に関与することのデメリット(Q4)

記述回答があったものが私立大学：105，私立短大：65 であった。得られた記述内容を，Q3 の場合と同様に内容分析の手法を用いて分類整理し，構成比が大学/短大で 10% を越えるものを抽出した（表 8 および表 9）。

表 8 学生募集活動に友愛組織が関与することのデメリット(分布)

主な反応カテゴリー	私立大学	私立短大
1．情報のアップデートが難しい	29.5%	36.9%
2．個人的体験による偏り	28.6%	53.8%
3．デメリットは思い当たらない	17.1%	20.0%
4．伝達内容の統一が難しい	14.3%	21.5%

表 9 学生募集活動に友愛組織が関与することのデメリット(記述)

1．情報のアップデートが難しい
・最新情報を知らなかったり，誤った情報を伝えてしまう
・母校の最新の情報を的確に伝えきれない
・カリキュラムなど，変更されていることを十分に説明できない
・母校の現状全体を把握して伝えることは難しい
・新設学部・学科等，改組による最新の情報が伝わらない
・最新情報とのタイムラグが生じる
・自分が学生だった頃のイメージが強く残っている（昔はこうだった）
・柔軟な入試制度や学校の現状を正確に伝えられるか疑問である
2．個人的体験による偏り
・自分の在学時をベースに話してしまう
・在学中のイメージでしか話ができない
・独りよがりの説明に陥る恐れがある
・卒業生の世代の幅が大きいため，本学の学風等について捉え方が異なる
4．伝達内容の統一が難しい
・組織化，マニュアル化，教育の周知徹底など，かなりの手間がかかる
・責任や権限を明確化しないと様々な問題が発生する可能性がある
・学校として意図していない情報まで伝えてしまう可能性がある
・外部には知られたくない負の部分まで外に出す可能性がある
・担当者により，説明の内容にバラツキがでる
・協力してほしいことと，タッチしてほしくないことの線引きが難しい

Q3 においてメリットの源として指摘されていたことが，ここではデメリットの原因としても捉えられている。すなわち，実体験に基づくが故に主観的な要素が強くなり過ぎるのではないかという懸念・不満などである。さらには，事前調整の不備によるプレゼンテーション内容や対応のバラツキについての懸念も表明された。

3.5 友愛組織が入試関連プロセスに関与することのメリット(Q5)

ここは，友愛組織が入試関連のプロセスに関与することのメリットについて，自由記述による回答を求めた部分である。

表 10 入試関連プロセスに友愛組織が関与することのメリット(分布)

主な反応カテゴリー	私立大学	私立短大
1．適合的学生の確保	44.6%	37.0%
2．メリットは思い当たらない	31.3%	10.9%
3．アドミッションポリシーの伝達	14.5%	32.6%
4．学生確保	8.7%	13.0%
5．推薦入学の担保	6.0%	13.0%
6．そもそも関与すべきでない	7.2%	10.9%

表 11 入試関連プロセスに友愛組織が関与することのメリット(記述)

1．適合的学生の確保
・向学心の強いしっかりとした人物を送ってもらえる
・入学後，本人の意思のブレが生じない
・帰属意識の高い学生確保につながる可能性がある
・目的が明確な受験生を推薦いただける
・適性のある学生を募ることができる
・学校に合った，入学後に力を伸ばせる学生を迎えることができる
・本学独自の学校文化を継承する人材を選抜することができる
・学風に適合した学生を迎え入れる可能性を高めることができる
3．アドミッションポリシーの伝達
・同窓生子女の応募であり，アドミッションポリシーを良く理解している
・学風や理念を，あらかじめ十分理解してもらえる
4．学生確保
・卒業生の人的な交流ネットワークを活用して，幅広く学生を募ることができる
・卒業生，在学生および父母などの協力を得て幅広く学生を集めることができる
・学生募集が難しくなっている全国の学校にとっては大変重要である
5．推薦入学の担保
・組織と短大のつながりがあることで，卒業生として責任が持てる学生を推薦してもらえる
・人物情報の信頼を見分けやすくなる

記述回答があったものが私立大学：83，私立短大：46 であった。得られた記述内容を，Q3，Q4 の場合と同様に内容分析の手法を用いて分類整理し，構成比が大学/短大で 10% を越えるものを抽出した（表 10 および表

11）。

友愛組織が入試関連プロセスに関与することで期待できることは，大学・短大の学風やアイデンティティへの親和性，アドミッションポリシーの理解度，修学継続への意思といった面で確かな学生を確保できる可能性があるということ，と考えられているようである。

なお，このQ5とデメリットを問う次のQ6に対する回答では，入試の公正性・公平性についての社会的期待に関連する言及が多く見られた。

3.6 友愛組織が入試関連プロセスに関与することのデメリット(Q6)

ここは，友愛組織が入試関連のプロセスに関与することのデメリットについて，自由記述による回答を求めた部分である。

回答欄への記述があったものが私立大学：97，私立短大：54であった。得られた記述内容を，Q3～Q5と同様に内容分析の手法を用いて分類整理し，構成比が大学/短大で10%を越えるものを抽出した（表12および表13）。

表 12 入試関連プロセスに友愛組織が関与することのデメリット(分布)

主な反応カテゴリー	私立大学	私立短大
1．公平性・公正性の問題	59.8%	88.9%
2．一切関与させるべきでない	15.5%	11.1%
3．情報管理上の問題	14.4%	11.1%
4．情実や不正の温床となる	12.4%	14.8%
5．各種の過誤・責任の所在	11.3%	3.7%
6．趣旨共有の難しさ	11.3%	3.7%

これらのカテゴリーは，さらに大きく2つに分類できる。第1は，「1.公平性・公正性の問題」と「2.一切関与させるべきでない」の2カテゴリーから構成される「原則論的見地」。第2は，それ以外のカテゴリーで構成される「技術論的見地」である。

表 13 入試関連プロセスに友愛組織が関与することのデメリット(記述)

1．公平性・公正性の問題 ・公平性，公正性，正確性に欠ける ・社会的に見て公平・公正であるべき入試に疑問である ・縁故入試であるとして社会的批判を受ける可能性がある ・関係者が有利に取り扱われると疑われる可能性がある ・合否判定に強く関与されると公平性が崩れる ・「公平か？」という外部の目に応える明確なものが必要であろう ・公平性について疑義が生じると思われる ・特別枠や入学金免除などは一般の不公平感を生じさせる ・入試合格に関して同窓が有利という偏見を持たれる可能性がある ・具体的な関与は入試の公正さを阻害する ・入学を前提に話をされると，合否判定時に大きな問題となる ・友愛組織に関与していない方々から敬遠される可能性がある
2．一切関与させるべきでない ・そもそも関与すべきものではない ・対外的な説明ができないのではないか ・教育とは別次元の発想で，ミッションが崩れる可能性が高い ・友愛組織が入試に関与すること自体が社会通念に反している ・入学後の教育への責任という面から，教員組織以外の入試への関与はあり得ない
3．情報管理上の問題 ・就位に関する機密保持ができなくなる恐れがある ・個人情報等，秘密情報が漏洩する恐れがある
4．情実や不正の温床となる ・情実が入る ・こり押しされる危険性がある ・面接などでは個人的な感情が入り込む可能性がある ・友愛組織と受験生の関係において，学校側に知り得ない不測の利益関係が生じる恐れがある ・特権意識ができてしまう恐れが大きい
5．各種の過誤・責任の所在 ・トラブル等が発生した場合，責任の所在が不明確になるのではないか ・重要な情報の流出や入試業務上のまちがいなどが起こりやすくなる ・入試の手続き上の問題が生じる可能性がある
6．趣旨共有の難しさ ・入試に関する情報等を詳細まで共有することが難しい ・アドミッションポリシーを的確に理解した上で関与できるか不安がある

4 まとめと考察

友愛組織の学生募集活動への関与は，私立大学・短大の25%程度，合否判定等の入試関連プロセスへの関与は，私立大学の8.6%，私立短大の10.4%において存在することが明らかとなった。

記述回答の内容からは，アドミッションポリシーに適合的な学生を迎え入れる可能性を高めるといったメリットの指摘とともに，社会通念に配慮した慎重姿勢も多く認められた。

学生の募集/選抜に友愛組織の関与を組み込むことは，その主旨と方法の合理性の社会的説明可能性を確保しつつ，今後，設置区分の別によることなく，SMALL Admission の一形態として模索され得る方向性であろう。